平成20年度 科学技術振興機構 社会技術研究開発センターによる委託研究『**言語学・応用言語学に基づく、外国語能力の検査、判定、評価法の開発**』(研究機関代表者：長谷川信子)

## 2008年度　研究活動報告

本研究は、2004年12月より5年間の計画で進行中の他大学（首都大学東京、東北大学、広島大学、他）との共同研究プロジェクト「脳科学と教育」タイプ（II)『言語の発達・脳の成長・言語教育に関する統合的研究』(研究代表者：首都大学東京大学院・萩原裕子教授）におけるサブ研究領域としての研究である。プロジェクト全体としては、言語の発達と脳の発達の関連を教育との関わりも含め、言語テスト、脳機能計測などにより明らかにすることを目指しているが、CLS担当の上記サブ領域では、早期英語教育で得られる英語力の評価と判定を中心に調査・研究し、2011年度から小学校高学年に必修化される英語活動に、具体的な指針となり得る活動内容や評価法を提示することである。

その目標に鑑み、昨年度までに、児童英語の内容的基盤となる「早期英語教育用語彙リスト」の編纂し、それを基に開発した「早期英語語彙テスト」および「日本語語彙テスト」((独)メディア教育開発センター・小野博教授監修)、「児童の言語環境調査アンケート」と共に総勢700名余りの児童に実施したが、今年度は、(i) そのデータを集計・分析、および、(ii)児童英語語彙リストの特徴を言語学的な観点から分析、の2点に絞って研究を遂行し、開発したテストの信頼性、英語の語彙力と日本語の語彙力の相関、児童英語教材に見られる語彙の特殊性やそこから派生できる文のタイプなどについて、興味深い知見を得た。これらの成果は、AILA や JALT、JACET といった国内外の英語教育学関連学会において発表した。